

旧赤松家だより

令和2年2月13日



まだまだ寒い日が続いていますが、庭内の梅はだいぶ咲き始め、梅の蜜を求めてやってきたメジロの姿も見られます。

桜と並んで日本を代表する梅の花。今から1300年前の奈良時代には、花見といえば、桜ではなく梅の花を眺めるのが花見だったと言われていました。

梅の花言葉には「忠実」、「忠義」、「高潔」などがあります。この由来は、平安時代の権力闘争に敗れ大宰府に流された菅原道真の後を追って、空を飛んで海を渡り道真のもとに辿り着いた梅の伝説「飛梅伝説」にあると言われていています。道真が同じように愛した桜は悲しみの余り枯れてしまい、松は道真のもとに辿り着く前に力尽き、唯一道真のもとに辿り着き、春が来るたびに花を咲かせて失意の道真を慰めたと言われる梅が「忠実と忠義の象徴」と捉えられ花言葉が生まれたのではないかと考えられます。

『東風吹かば ^{こち}にほひおこせよ 梅の花 ^{あるじ}主なしとて 春を忘るな』(拾遺和歌集)

暖かな日差しの中、お花見をしながら庭内を散策されてはいかがでしょうか。

内蔵1階ギャラリーでは、13日から小林和昭さんの竹細工の作品展を開催しています。磐田三ヶ野産の竹を使った竹細工の照明など6点、蔵の雰囲気とマッチしてとても幻想的であたたかみのある空間を生み出しています。ぜひ、ごらんください。

内蔵ギャラリーのご案内

『磐田三ヶ野産の竹を使った竹細工』

開催期間：2月13日(木)～2月24日(月)

*休館日 2月17日(月)

開催時間：午前9時～午後4時30分

(最終日は午後2時まで)

入場料：無料

出展者：小林 和昭

問い合わせ：旧赤松家記念館 0538-36-0340

